

第362回産業事情検討会（5月23日開催）

2025年の日本のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）

－日本で生きることの質的変容－

国立社会保障・人口問題研究所 社会保障基礎理論研究部長 山本克也氏

どこで最後を迎えるか

一般論として、日本人の8割超は病院・介護施設で亡くなっています。平成24年度高齢者の健康に関する意識調査によると60歳以上の方の35.6%が自宅で介護して欲しいという結果になっています。ですから、先ほど申し上げた在宅支援・在宅推進というのは、一応国民の皆さまの希望に沿っています。同じ調査で、最後を迎えたい場所は54.6%が自宅と応えています。そして誰に介護を頼みたいかということでは子どもが50%を超えています。しかし、子どもの働き盛りの時に親の介護を迎えることになります。場合によっては自分の子どもが小さければ、親と子どものダブルになることもあります。そうすると、自分では難しくなり、ヘルパーさんや施設の方を使うということは重要になってきます。

「人口動態調査」(2016年)によると1950年代は自宅死が8割を超えていたのですが、近年は自宅死がどんどん減って、病院死がどんどん増えて圧倒的に多かったのですが、最近の傾向として介護施設・老人ホームで最後を迎える人が増えてきました。

生かすための医療処置

個人的には、胃瘻は嫌です。胃瘻に関しての公的統計はありませんが、最近は病院側、患者側双方が無用な延命処置はしないということで年々減ってはいます。とはいえ、胃瘻している患者は数十万人いと言われている。少し前までは、胃瘻をしないと飢え死にすることから医療関係者は、当然のこととして行っていました。私が北欧で胃瘻の話をしたら、現地の医療関係者は医療用語としては知っていたのですが、行為自体は知らなかった。これは死生観の違いだと思いますが、ヨーロッパでは、日本で言うところの介護特別養護老人ホームに入ると、医療行為はほとんど受けません。重い病気になっても医療行為はせずに自然に任せるという感じです。日本の場合は37.1℃でも熱が出ると病院に連れて行きます。非常に過敏になっています。もう少し施設なりのやり方というものがあるのもいいと思います。

また、日本人の透析患者は現在200万人くらいいますが、患者のほとんどは糖尿病とか腎臓疾患の併発によって透析に至るというパターンです。考え方はいろいろあると思いますが、イギリスのNHS(ナショナルヘルスサービス)では、65歳を超えて透析になった人は、透析は自己負担になります。日本の場合は、20年くらい前は年間の透析医療費は1000万円くらいかかりましたが、現在、年間費用は300万くらいです。本人の自己負担は、透析患者は1級障がい者になりますので、自己負担は、お年寄りで1万円くらい、若い人で3～4万くらいだと思います。かつては透析を始めると5年くらいの寿命と言われていましたが、最近の技術進歩で血液をろ過する膜がどんどん性能が上がって寿命も延びてきています。

加齢の効果

個人的には身寄りがなくなってしまうと、ある意味、死は怖くないと思っています。平均寿命と健康寿命の差を考えた場合、自分で自己決定ができるなら、終い方を決めたいと思っています。

加齢の効果を精神面から見ると、思慮深くなる「円熟化」と感情の抑制が効かなくなる「先鋭化」がありま

す。最近耳にする、切れる老人などは先鋭化の症状だと思われますが、認知症の初期症状の可能性があり、自分では気づかないことが多いです。昔、偏屈な老人と言われていた人たちは、この「先鋭化」した老人だったのではないかとされています。

偏屈だと誰かに言われた瞬間に気づいて、対応していくことが必要だと思います。

クオリティ・オブ・デス

クオリティ・オブ・ライフの中で重要なことは、クオリティ・オブ・デスだと思います。死に対する自己決定権とまでは言えませんが、終い方のクオリティだと思っています。

先程、示してきた数字ですが、今現在の人口の年齢区分はかなり正確です。そのうち病気になっている人の割合がでて、3年先、5年先にはこれくらいの割合になるということもかなり正確に出ます。その人たちが、現在、かかっている費用から 190 兆円という数字も現状を投影する限りにおいて、正確です。これを考えることによって、その投影が意味をなさなくなってくる可能性は充分にあります。

国民一般が、もう少しコスト意識をもって頂く必要があると思っています。先ほど申し上げた通り、役所は丸ごと相談を受け付けます。ただし、役所は一方で、自立支援法を立ち上げています。自立支援法というのは、働ける人には、職業訓練などをして働いてもらうということで、若年の生活保護を受けている方には積極的に行っています。

この隙間をどう考えるかは、われわれ研究者だけでなく、皆さん一人ひとりが生活のコスト意識を持っていたいただければと思います。